

# 景気観測(LOBO)

《2018. 4~6月》

平成30年度 第1四半期

日立商工会議所  
情報化委員会

## I. 調査概要について

### (1) 調査期間並びに調査基準

調査期間	四半期毎に実施、時期としては7、10、1、4月
調査基準	四半期毎の景況感を対前年同期と比較

### (2) 調査対象並びに回収状況

業種	調査対象件数	回収件数	回収割合(%)
製造業	25	20	80.0%
小売業	30	23	76.7%
建設業	20	19	95.0%
サービス業	25	19	76.0%
計	100	81	81.0%

### (3) 調査内容並びに調査方法

調査項目	業界全体の動向と関心事項 売上高の推移と変化要因 採算・仕入単価・従業員の変化状況
調査方法	FAXの活用

### (4) 調査結果の採用

商工会議所として、景況の判断資料とすると共に一般会員にも「かいぎしよNEWS」での掲載を中心に景気動向として発表。協力事業所に対しても結果送付。

#### ◎ LOBOとは

「CCI (Chamber of Commerce and Industry)-Quick Survey System of Local Business Outlook」(商工会議所早期景気観測)からとった略称です。

#### ◎ DI値(景気判断指数)について

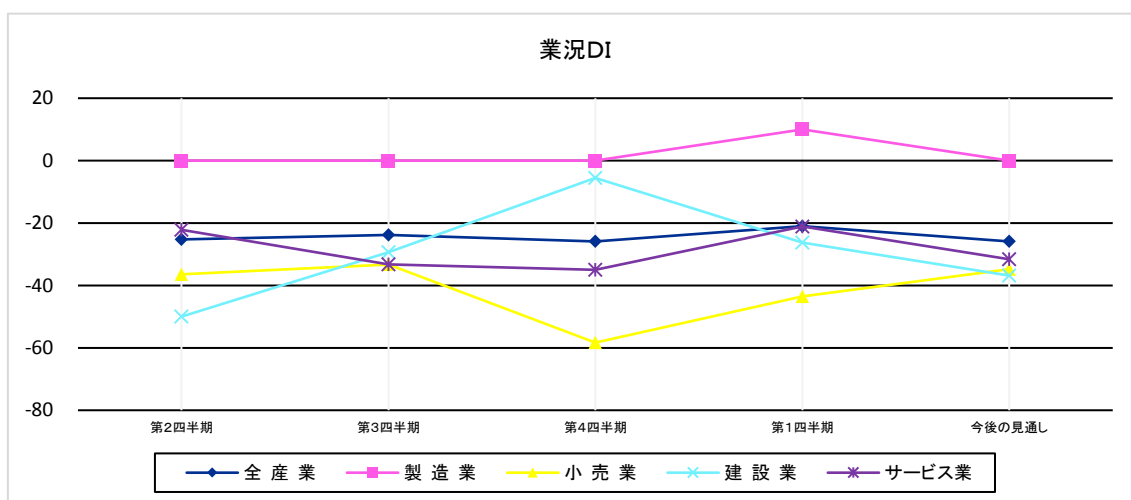
- ・ DI値は調査項目についての景況判断状況を表す。(▲で下向き。今期より上向き時の△を削除)
- ・ 強気、弱気等景況感の相対的な広がりの意味する。
- ・  $DI = (\text{増加} \cdot \text{好転} \cdot \text{不足等の回答割合}) - (\text{減少} \cdot \text{悪化} \cdot \text{過剰等の回答割合})$

## II. 業況判断について

- 全産業の業況は、▲21.0と前回調査時(▲25.9)から4.9ポイント回復。今後の見通しも▲25.9(前回調査時▲35.3)と、建設業を除き総じて回復基調。
- 製造業では、10.0(前回調査時0.0)と1年3ヶ月ぶりに「好転」が「悪化」を上回る結果となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。今後の見通しは、前回の▲21.7に対し0ポイントと改善を見込む。
- 小売業では、▲43.5と前回調査時(▲58.3)から14.8ポイント改善。今後の見通しも▲34.8と前回調査時(▲45.8)より改善傾向。
- 建設業では、▲26.3と前回調査時(▲5.6)から20.7ポイント悪化。「不変」から「悪化」への変化が主因。今後の見通しも、▲36.8と悪化(前回▲33.3)。
- サービス業では、▲21.1と前回調査時(▲35.0)より改善。今後の見通しも▲31.6と前回調査時(▲40.0)より改善の見込み。

(1) 業況DIの推移とキーワード

	平成29年度			平成30年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月～9月)
全産業	▲25.3	▲23.8	▲25.9	▲21.0	▲25.9
製造業	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
小売業	▲36.4	▲33.3	▲58.3	▲43.5	▲34.8
建設業	▲50.0	▲29.4	▲5.6	▲26.3	▲36.8
サービス業	▲22.2	▲33.3	▲35.0	▲21.1	▲31.6



	キーワード		
	第1位	第2位	第3位
製造業	原材料費上昇	原材料入手困難	人手不足
小売業	競合出店	人手不足	茨城国体
建設業	競争激化	人材不足	人口減少
サービス業	個店離れ	人材不足	インバウンド

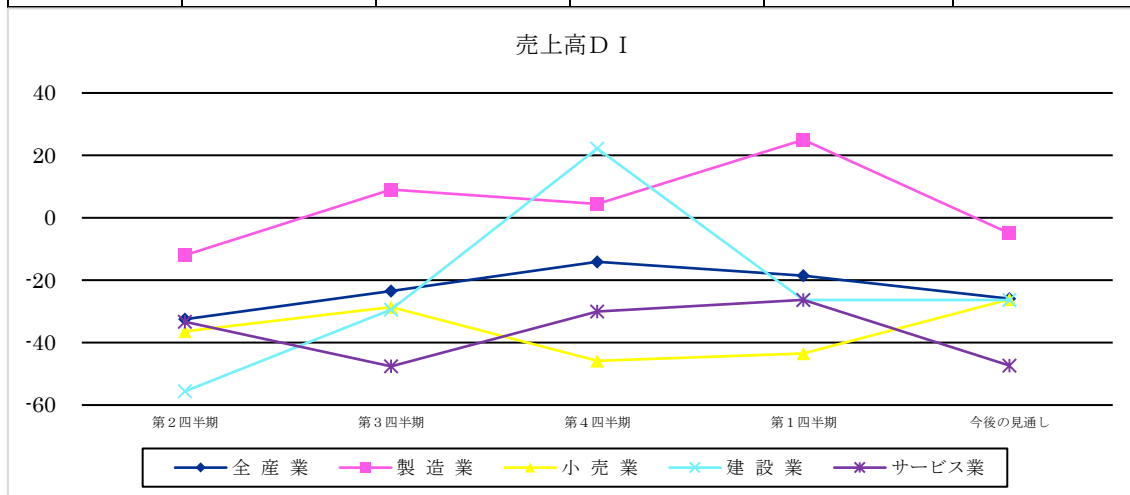
《全国との比較》

	平成30年度第1四半期		今後の見通し(7月～9月)	
	全国(6月)	日立	全国	日立
全産業	▲15.4	▲21.0	▲13.3	▲25.9
製造業	▲6.5	10.0	▲7.1	0.0
小売業	▲32.3	▲43.5	▲30.1	▲34.8
建設業	▲10.1	▲26.3	▲11.1	▲36.8
サービス業	▲12.8	▲21.1	▲8.3	▲31.6

(2) 売上高・採算・従業員の推移 (D I 値)

(売上高)

	平成29年度			平成30年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	▲ 32.5	▲ 23.5	▲ 14.1	▲ 18.5	▲ 25.9
製造業	▲ 12.0	9.1	4.4	25.0	▲ 5.0
小売業	▲ 36.4	▲ 28.6	▲ 45.8	▲ 43.5	▲ 26.1
建設業	▲ 55.6	▲ 29.4	22.2	▲ 26.3	▲ 26.3
サービス業	▲ 33.3	▲ 47.6	▲ 30.0	▲ 26.3	▲ 47.4



(採算)

	平成29年度			平成30年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	▲ 32.5	▲ 33.3	▲ 27.1	▲ 25.9	▲ 25.9
製造業	▲ 12.0	▲ 13.6	▲ 17.4	10.0	▲ 5.0
小売業	▲ 45.5	▲ 38.1	▲ 54.2	▲ 52.2	▲ 34.8
建設業	▲ 55.6	▲ 52.9	5.6	▲ 21.1	▲ 31.6
サービス業	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 35.0	▲ 36.8	▲ 31.6

(従業員)

	平成29年度			平成30年度	
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	今後の見通し (7月~9月)
全産業	13.3	22.2	23.5	21.0	18.5
製造業	16.0	18.2	8.7	20.0	15.0
小売業	13.6	9.5	16.7	13.0	13.1
建設業	11.1	41.2	33.3	26.3	21.1
サービス業	11.1	23.8	40.0	26.3	26.3

業 種	概 況
製 造 業	<p>重電関係は依然低迷が続くものの、自動車関連や昇降機関連が堅調に推移している。鉄鋼をはじめとした金属材料や原材料、燃料費の上昇による影響を上回り、景況感は改善。全国的にも、電気部品や産業用機械、自動車関連の生産・輸出が好調となっている一方で、原材料費の高騰、増産に伴う人手不足の指摘等もあり、先行きは慎重な見方。</p> <p>個別では、「景気の持ち直しを感じる」「あらゆる材料費の高騰プラス、入手にも困難をきたし、生産にも影響が出ている（組合）」「原材料UPの約80%位製品単価に反映されたが、まだまだ100%まで行かないので厳しい（機械加工）」などの報告があった。</p>
小 売 業	<p>依然として消費者の節約ムードを受け、業況感は好転せず。売上の減少も続いている。減少の要因として、購買意欲の減少に加え、消費者ニーズの多様化の影響を指摘した声も。また、仕入単価上昇の報告が多く、採算悪化へとつながっている。一方で、仕入上昇の影響を上回って売上を伸ばした店舗もあり、回復へとつながった。</p> <p>個別では、「フォトコンのユーザが増え、大きな売上になっている（カメラ販売関連）」「新しいHPによりアクセス、来店者数が増加（オートバイ販売関連）」「小名浜のイオンモールオープンで人の流れがどう変化するか関心あり（小売業）」「人件費をアップしたからといっても人手不足のまま（食品販売）」などの報告があった。</p>
建 設 業	<p>全国的には、都市部の再開発や設備投資、オリンピック関連を中心とする民間工事が堅調に推移しており、改善している。一方で、当地区は前回の季節的要因による改善からの反動を受け悪化傾向。採算・売上の上昇している企業がある一方で、「不変」から「悪化」に転じた企業の影響を受け、悪化傾向となった。</p> <p>個別では、「公共工事の発注はこれから本格化する見込み。公共建築工事減少により、民間建築工事の価格競争が激化傾向（総合建設業）」「求人に対する応募が極めて少なく人材不足（特に技術者）が続いている。そのため積極的な受注活動ができない（水道・ガス工事業）」などの報告があった。</p>
サービス業	<p>物流関連では、ドライバー不足が恒常化している。一方で県北地域の売上大幅減少の報告も。加えて軽油価格の上昇傾向が不安材料となり、先行きの業況感を悪化させている。</p> <p>観光・飲食業関連は、依然として厳しい状況。全国的にも、平時より早い入梅により客数が減少した飲食業やレジャー関連業が業況を押し下げ悪化している。</p> <p>個別では、「若い人の飲食店利用が減少し、また高齢者の利用も減少している（飲食業）」「風評被害がまだ多少なりともあるのではないかと（旅館業）」「ドライバー不足によるトラックの必要台数確保に苦慮している。顧客の夏季休暇期間を除けば、常にその状況にあり、下請事業者への支払い率は高騰している（運送業）」などの報告があった。</p>